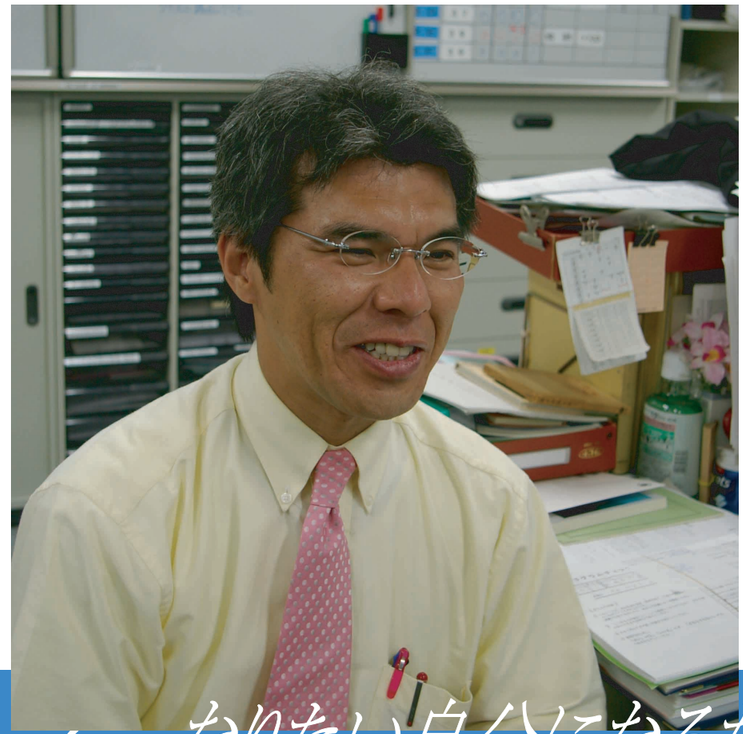
なりたい自分になるための ヒントとなるエゴグラムを活用

インタビュー
「総合の時間」推進部長　市川良幸　先生



■3D教育プログラム導入への経緯

当時、「総合の時間」に何を入れていくかを進路指導部が中心になって考えていました。しかし、3年間分のカリキュラムを決めるにはノウハウがありませんでした。そんな時にKA教育「3D教育プログラム」を導入して総合の時間を行っている学校があることを知り、本校でも導入を検討することになりました。

本校の進路指導の目標は「生きる力」を育むこと。そこで、社会的に活躍している人の講演、模擬授業を取入れ多角的に学んでもらうという方針はありましたが、これだけでは3年間は続きません。そこで、別の教材としてエゴグラムが候補としてあがったんです。“なりたい自分になる”そのために何をやったらいいのかのヒントを与えてくれるのがエゴグラムでしたので、私たちが目指す方向と重なる部分がありました。

初めは1クラスだけエゴグラム診断をサンプルとして導入しました。その後、総合の時間が02年度の1年生からスタートし、こうしたプログラムの受け皿が学校全体として設けられたため、05年度から全学年での導入に至りました。

■学年毎の取り組み方の特徴

学校側から進路学習を中心とした総合の時間にするようにとの要請がありましたので進路決定に沿った流れの中で学年毎に動いていくようにしています。1年生の場合は、まず職業を知ることから始めます。2年生では文系、理系に分かれ、具体的に行きたい方向性を定めていくためのきっかけを与える、3年生では学校や学部など具体的な進路決定をしていきます。

自己推薦文などは、3年生になってからでは遅いので2年生の段階でこれに取り組み、自分に足りない体験、経験を明確にして、その後の学校生活に活かせるようにしています。

■3D教育プログラムへの生徒や保護者の反応は？

生徒は基本的には皆、集中してやっているとは思いますが、ポイントが明確なグループコミュニケーションのほうが取り組みやすいのかなと思います。

また、回によって反応が違っています。例えば前回はあまり関心がなかったが今回は面白かった生徒もいれば、逆に前回が面白くて今回があまり関心がなかった生徒もいます。

生徒もさまざまですから万能なものはないと思います。年間を通して取り組む中で、1つ、2つと自分にとって役に立ったと思えるものがあればいいんじゃないかと思います。

保護者については、1年次にKA教育の菊地氏から保護者会などの場で実際に保護者の方にも診断をやってもらい説明していただいています。これも評判はいいですね。

◆東洋高校　2学年　総合の時間　年間予定表

月	日	曜日	部署	5限	6限	行事予定	総合のタイトル
4	11	火	総合			2・3年オリエンテーション／1年代休	エゴグラム診断／マイチャレンジ
	14	金	総合	総合	HR	教育実習生招集	アプローチ8　表現力を磨く自分レポート
	21	金				保護者会／3年保護者対象進路説明会／開校記念日	
	28	金		HR	HR	第1回エゴグラム結果報告会／3年大・専門別ガイダンス	体育祭
10	6	金	総合	総合	HR	生徒会役員選挙	エゴグラム診断／マイグロース
	13	金		総合	総合	3年一般受験日程表配布／スピーチコンテスト	スピーチコンテスト
	20	金		HR	HR		学園祭
	27	金				100周年記念式典・祝賀会	
11	8	水				第2回エゴグラム結果報告会	
	10	金				保護者会（2年保護者対象進路説明会）	保護者会
	17	金	進路	総合	HR	3年一般受験日程表作成	生徒対象進路説明会
	24	金	総合	総合	総合	3年一般受験日程表回収	大学・専門模擬授業

※ マイチャレンジ：エゴグラム改善の目標達成状況を月末に確認する
マイグロース：各自のエゴグラムを比較し、将来目標とする自分像を鍛える

■3D教育プログラムの具体的な効果は？

エゴグラム診断については、年2回の診断を行うことによって、生徒自身に“自分とは？”の疑問を投げかけています。10代の時は考え方も将来の夢も定まりにくく、春と秋の診断結果も全く異なった結果が出ることも少なくありません。そういう意味では、診断結果を丹念に生徒一人ひとりにフィードバックすることで生徒の意識を「進路」へとシフトしていくことができます。

また、グループ学習ではこれを通して交友関係が広くなっていると思います。普段の学校生活では話をしなかった生徒同士がこういう場があることで話す機会を持ち、お互いを知ることで協調性を持つことができるようになっています。

クラス全体としても団結力が強まっています。生徒同士が一つのプログラムに取り組む中で、同じ方向に向かっているという確認ができるのだと思います。

中には、積極的に参加しない生徒がいたりもしますが、そうした生徒に対しても周りが巻き込んでくれたり、リーダーを立てて核をつくり、自然と協調性をもって行動するように変わってきました。

グループで話し合う際、人の意見に耳を傾け、お互いを尊重するようになるので、昨今、社会問題化しているイジメ問題の解消にもつながると思います。

■取り組みにおける今後の課題

現状でもまだ教員間の温度差があります。例えば、配布物一つにしてもただ配るだけの先生もいれば、何かの話と関連付けて配布する先生もいます。こうした企画や構想をもって事にあたる先生は、プログラムの活用も上手です。

こうした温度差を縮めるために、学年主任と進路指導部が共通意識を持つよう周知することが大事だと思います。

★『3D教育プログラム』でココが変わった！

- 生徒の意識が「進路」にシフトしやすくなった
- グループの中で自主性と協調性が芽生えた
- クラス全体が団結できるようになった